

平成 30 年度 第 4 回 昭島市社会教育委員会議・要点録

開催日時／会 場 平成 30 年 7 月 19 日（木）午後 7 時 00 分～9 時 00 分 市役所 205 会議室
出席者 長瀬議長、谷部副議長、西尾委員、稲垣委員、佐藤委員、松本委員、
中村委員、吉村委員
欠席者 並木委員、二ノ宮リム委員
事務局 吉村社会教育係長、来住野社会教育主事
東京学芸大学社会教育実習生 2 名

1 開 会

<配付資料>

- 資料 1 社会教育関係団体数推移
- 資料 2 あきしまの社会教育委員ガイド
- 資料 3 （仮）市民相互と地域のつながりを育てる生涯学習を推進するための社会教育の役割 ―建議―

- ・昭島市月間行事予定表 8 月
- ・とうきょうの地域教育 No. 132
- ・あきしまの青少年 NO. 250

2 報 告

（1）小学生国内交流事業説明会について（7/7）

委 員 親子向けの説明会で最終的な人数が確定した。昭島市からは男子 8 名（5 年生 5 名、6 年生 3 名）、女子 10 名（5 年生 2 名、6 年生 8 名）計 18 名、岩泉町からは男子 12 名（5 年生 9 名、6 年生 3 名）、女子 14 名（5 年生 6 名、6 年生 8 名）計 26 名。うち、3 名が 2 年連続の参加とのことだ。7 月 12 日に、環境コミュニケーションセンターで、電子顕微鏡の設置調査を行い、子どもたちの体験が実施可能となった。3 つのコースを用意し、順に参加してもらう予定だ。8 月 3 日に岩泉町の子どもたちが昭島市にやってくる。

（2）平成 30 年度社会教育関係団体登録数について（資料 1）

※事務局より、配付資料の説明

3 議 題

（1）あきしまの社会教育委員ガイドについて（資料 2）

議 長 平成 26 年 7 月に公募の市民委員制度を導入するにあたり、当時の社会教育委員会議で作成した。内容を改訂したものをご覧いただき、ご意見があればお願いしたい。

※改訂箇所と、追記したい内容について意見をいただいた。

(2) 建議「市民相互と地域のつながりを育てる生涯学習推進のための社会教育の役割」について (資料3)

委員 前回よりとてもわかりやすくなったと思う。調査内容の検証の結果について、カテゴリー分けを活かせたらと思い、お配りした表を作成した。その目的は、キーワードである「捉える」「活かす」「つなげる」について、言葉の捉え方をはっきりさせることだ。「捉える」はニーズの把握や対象を絞ること、「活かす」は、目的を明確にすること、方策・企画・周知方法について課題と成果をまとめられるのではないかと。「つなげる」は学びを深めるということですので「つながる」に入るのではないかと思った。介護福祉課では民生委員など他の組織とのすみわけや周知方法を探ることが大事であると感じられる。社会教育課の意義としては、社会を育てる人材作りが明確であるのはとてもよいと思う。保護者の学ぶ意欲を高めるためにも、親子を対象にすると参加率が上がる傾向になるので、子どもと一緒に活動するよさを活かす。うまくいっている事業を継続調査し、どんなことをやればうまくいくのかを見ていくということも面白いかと思った。

議長 委員より、まとめ方のヒントをいただいたので、参考にしながら具体的な内容にしていきたい。配付の建議案は「あきしま会議」についてもかなり書き込んでいる。ただ、そこに終始してしまうと、評価した事業についての提案が見えにくくなっているように感じるので、事業についての提案も盛り込んでいきたいと考える。今回各部署の事業を見てきたが、事業全体が市民のニーズをしっかり捉えていると感じられたらだろうか。すべての事業が生涯学習を意識して実施されているわけではないところもあるが、「あきしま会議」だけを入れてしまうと、それぞれの部署との関連が薄くなってしまう。

委員 評価した中には、このままで十分であるというものと、工夫が必要だと思われるものがあった。工夫が必要だと思われる事業の担当者は、次回の「あきしま会議」で報告し、市民の声を直接聞くとよいと思う。企画者の意識を高めることになる。担当の事業に携わって、どう感じたか、どう変わったかなどを報告してもらうことは、個人のステップアップかもしれないが、大切なことだと思う。職員の方は、市民に対し、困っているところを明らかにしてもよいのだと思う。リラックスした場で市民と接する機会があってもよいのではないかと思う。

議長 事業に参加した人の意見ではなくて、事業を知らない人から第三者的に見てもらうのがいいのではないかと。

委員 改善していかなければならない部分に関しては、市民と行政の間に入る私たちとしては、そういう声掛けをしていくことが大事だと思う。

議長 全体の報告のうち、2つくらいは市の事業に関する報告も入れて、事業に関して、全体的な意見をもらうということができるとよいと思う。

委員 3つのキーワードのカテゴリー分けによって、あきしま会議をメインに持ってきたときに、あきしま会議で市民の声を聴いてニーズを捉えられた、他者からの意見を聴いたことで目的が明確化した、改善の方策が見られた等の方向性が見えてくると思われる。

委員 部署によってはやらなくてはならない事業もあるだろうが、やった方がいいと思って

取り組んでもらえたらよいと思う。事業に取り組む最初のスタートの意識が少しでも変わるといいと思う。

委員 あきしま会議もまだ1回しかやっていないので、今後続けていくことでブラッシュアップされるのかどうか、ある程度の方向性は見えていくと思う。まずは続けてやっていくことを方向づけていきたい。

委員 あきしま会議を数回続けていくことをめざすことだが、第3の最後を書いてある3行、第4の最後の2行は、私たちがこの2年間の社会教育委員の活動で得たものなので、強調したい。なぜなら、第3の最後の部分であきしま会議を考え、第4の最後の部分であきしま会議で得たものだからだ。運営者という大きな括りで捉えると、行政も運営者の一員であり、行政だからなどという括りはなしにしたい。

議長 第5のところをもう少し具体的に。事業がうまくいっているかどうかにかかわらず、我々が場を作るので、積極的に職員も参加し、市民のニーズを把握したり、活かすヒントを得たりして欲しいという内容でどうか。

委員 職員が報告をすることで、職員にとっても担当者として考えている事業のあり方、自分なりの想いを認識できると思う。そして、様々な意見をもらい、他者の力を借りることで、しっかりとした目的意識で事業を展開していくことができるようになると思う。

委員 あきしま会議での「相手を否定しない」というルールはとてもよい。

委員 ルールの下で安心して話すことができるようになる。

委員 あの場合では、いろいろな情報を得ることができた。例えば、チラシをもらって「行ってみよう」と思うと、あげたい人が頭に浮かぶ。そうやって情報は広がっていくものだと思う。

委員 つながる力は最大（最高）のチラシということ盛り込みたい。口コミもそう。

委員 10ページの（1）のところに入れたらどうか。

委員 SNSを使うのも人の力なので、やはり、「人」だ。

議長 そういったことが社会教育の役割であるとまとめたい。

委員 建議についてその他の意見として、「企画」「講座」「事業」の使い分けを明確にした方がよい。もうひとつ、他市の実践事例の箇所を、社会教育委員として私たちが参考にしたことであるキーワードを強調したい。ラウンドテーブルについても注釈がつけられるとよい。先生からの図も用いたい。

委員 あきしま会議は、参加者の序列をつけないことが特徴だと思う。ルールについても触れておきたい。

議長 あきしま会議の有効性を強調したい。

委員 「捉える」と「活かす」が結構近い意味で使われているので、もう少し分けたらどうか。

議長 「捉える」と「活かす」はあえて分けて考えるのが難しいと感じた。「捉える」にもいろいろな意味が含まれている。

委員 「活かす」は、捉えた課題を洗い出して終わりではなく、それを解決するためにそのような対策を取るか、各活動団体や担当課が具体策を立てる必要があるということでは

ないか。活動の内容等を見直し、参加したい人が参加しやすいよう活かしていくというやり方があるのではないか。具体的な対応が解決につながっていくと思う。

議 長 「捉える」「活かす」「つながる」の重なる部分をうまく分類し、書きこみたい。

委 員 この3つのワードの分類の仕方はとてもよい。読む人が理解しやすいと思う。

議 長 今後の建議作成のスケジュールを確認し、本日の会議は終わりとする。

次回

8月23日（木） 午後7時より 市役所 202 会議室

9月20日（木） 午後6時より 建議提出 庁議室